

日本放射線腫瘍学会 日本がん看護学会 共催
がん放射線治療 看護セミナー
第5回テーマ：がんの骨転移への放射線治療

開催日程 : 2007年10月13日(土)
開催場所 : 東京都港区六本木1-5-2 泉ガーデンギャラリー
募集方法 : 日本放射線腫瘍学会ホームページから受け付ける。
応募が募集人員に達した時点で締め切る。
日本放射線腫瘍学会ホームページアドレス : <http://www.jastro.jp/>
募集人数 : 350名
参加費 : 5,000円(日本放射線腫瘍学会もしくは日本がん看護学会会員)
8,000円(非会員)

はじめに

がん医療の中で放射線治療は根治から症状緩和まで多くの患者にとって重要な役割を担っている。放射線治療を受ける患者が増加する中で、「放射線」に対する根強い誤解や知識不足による不安を抱いている患者も多い。このような不安を和らげるために、看護師が事前にわかりやすい言葉で生活に即した指導を行うことは有用である。これは患者のセルフケアを促進することにもつながる。また、放射線治療を受ける患者は他のがん治療と同様に種々の有害事象を経験する。しかし、有害事象の多くは適切なアセスメントと効果的なケアの提供で症状を予防、もしくは低減させることが可能となる。一方、放射線治療には放射線治療医や診療放射線技師など多くの医療者が関わることも特徴のひとつである。医療者間の患者を中心としたコミュニケーションを図るために、看護師が重要な役割を担っている。

これらのことを看護師が実行するためには知識が必要であるが、その知識は専門的で広範囲に及び、臨床では習得する機会が少ない現状である。そこで、患者が安心して適切な放射線治療を受けられるように、看護師への放射線治療の知識の普及を目的として本セミナーを継続して開催している。

第5回セミナー開催にあたって

第1回及び第2回はほとんどの患者が経験する「皮膚炎」を、第3回は参加者アンケートで要望の高かった「口腔・咽頭粘膜炎」をテーマとして開催し、いずれも参加者から高い評価を頂いた。第4回と今回の「骨転移」についても参加者アンケートの上位項目からテーマを決定した。

がんの骨転移に対する放射線治療は、保存的で非侵襲的であり疼痛緩和や麻痺予防に大変有効である。また、患者は痛みや可動制限、スピリチュアルペインを経験し、心理・社会的な問題を抱えていることも多い。このような患者に対して看護師が果たす役割は大きい。

本セミナーでは、放射線治療を受ける患者への適切なアセスメントならびに効果的な看護実践のために必要ながんの骨転移に対する放射線治療についての知識と情報を提供する。

セミナーの目的

がん放射線治療に関する看護の質向上を図るために、適切なアセスメントならびに効果的な看護実践に必要な知識を提供する。

第5回セミナーの到達目標

- 1) 放射線治療の特徴、治療状況、作用・有害事象出現のメカニズムを含む基礎知識を理解する。
- 2) 放射線治療を受けるがんの骨転移患者の抱える身体・心理・社会・スピリチュアルの問題について理解する。
- 3) 放射線治療の基礎知識およびがんの骨転移患者の抱える問題について理解することにより、適切なアセスメントならびに効果的な看護実践を結び付けて考えることが出来る。

セミナーの構成

- 1) 放射線治療に関する基礎知識、効果と有害事象のメカニズムについて概説し、最後のセッションは参加者に提示してもらった症例や質問を講師や他の参加者を含めてディスカッションする。
- 2) 「放射線治療を受けるがんの骨転移患者」に関する対応に苦慮した症例と質問等についてアンケート用紙を当日会場にて配布し、記入後に回収する。

プログラム

時間	内容	講師	備考
～9:30	Information	(総合司会；午前) 萬 篤憲 (独) 東京医療センター放射線科医長 (総合司会；午前) 阿部 恵江 がん看護専門看護師 北里大学病院看護主任	
9:30～9:35	開会の辞	土器屋 卓志 埼玉医科大学放射線腫瘍科教授	5分
9:35～10:25	1. すぐに役立つ放射線治療の原理 放射線治療ががんに効く理由、放射線治療の有害事象について骨転移に注目し、分子から人体レベルで解説する。	北原 規 昭和大学藤が丘病院 放射線科教授	50分
10:25～10:30	休憩		5分
10:30～11:30	2. 骨転移の病態生理 骨転移出現のメカニズム、臨床的特徴などの基礎的知識を概説し治療方針の立て方など、Evidence に基づいて説明する。	小泉 満 (独) 放射線医学総合研究所 分子イメージング研究センター 上席研究員	60分
11:30～11:35	休憩		5
11:35～12:25	3. 骨転移の放射線治療 放射線治療と照射方法について最新の知見を含め、骨転移への照射にポイントを置いて概説する。	関口 建次 聖路加国際病院 放射線腫瘍科部長	50分
12:35～13:10	ランチョンセミナー 核医学検査入門	日本メジフィクス(株) 執行役員： 東 眞	
		(総合司会；午後) 早川 和重 北里大学病院放射線科教授 (総合司会；午後) 濱口 恵子 がん看護専門看護師 癌研有明病院副看護部長	
13:25～14:25	4. 骨転移患者の心理・社会・スピリチュアルの問題 骨転移による難治性疼痛を持つ患者の心理・社会的状態、疾患または患部の安静のための不動からの日常生活の拡大、病状進行によるスピリチュアルペインなど、患者の持つ問題について解説する。	田村恵子 がん看護専門看護師 淀川キリスト教病院ホスピス主任看護課長	60分
14:25～14:30	休憩		5分
14:30～15:20	5. 放射線治療を受ける骨転移患者の看護ケア 骨転移に対して放射線治療を受ける患者のアセスメントを行い、看護計画を立案し、効果的・効率的な看護ケアを実践するためのポイントについて具体的に提示する。	末国 千絵 国立がんセンター中央病院看護師	60分
15:30～15:40	休憩		10分
15:40～16:50	ディスカッション・質疑応答 放射線治療患者の看護問題とその解決へのアプローチについて、参加者から回収した症例と質問を中心に講師とフロアとでディスカッションする。	(司会) 関口 建次 聖路加国際病院 放射線腫瘍科部長 (司会) 喜多 みどり 東京都立府中病院 放射線科部長 (司会) 立石 久留美 (独) 東京医療センター 看護師長	70分
	閉会の辞	小松 浩子 聖路加看護大学 成人看護学教授 日本がん看護学会 理事	